

アジア鉄道信号・電化推進運転班巡回指導報告書

昭和四十年三月

国鉄信号部 東京区信号課 東京区

年度帰国研修員巡回指導

アジア鉄道信号・電化高速運転班

巡回指導報告書

国際協力事業団研修事業部

JICA LIBRARY



1050269[8]

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 3. 9	122
	74
登録No. 00016	TA

## は じ め に

この報告書は、国際協力事業団が実施した集団研修「鉄道信号」及び「鉄道電化・高速運転」の両コースに参加した帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として、帰国研修員の所属機関等を訪問し、現地での技術的諸問題に関する指導並びにニーズの調査等を行うため、昭和51年10月13日から10月29日までの17日間、タイ、インドネシア、韓国の3ヶ国に派遣した巡回指導鉄道信号、電化・高速運転班の業務報告である。

本報告書により、当該研修分野における各国の実情、帰国研修員の活動状況、彼らが抱えている諸問題及び研修に係る要望事項等について関係各位のさらに深い御理解をいただき、今後の研修コースの改善に資すれば幸いである。

なお、本件の実施のために御協力を賜った外務省、運輸省、日本国有鉄道、その他関係機関各位に対し深い感謝の意を表したい。

昭和51年12月

研 修 事 業 部

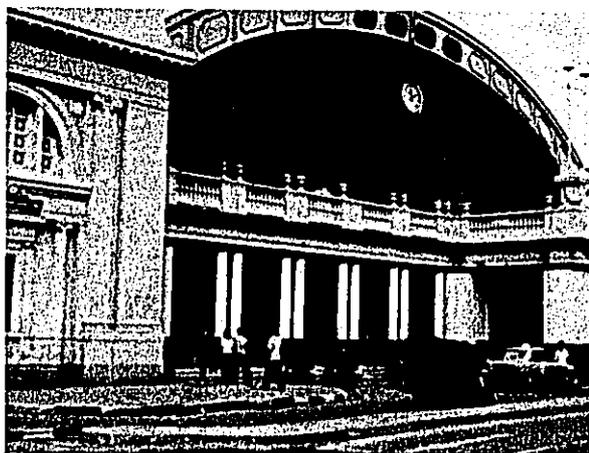
## 目 次

1. 総 論 .....	1
1 - 1 ま え が き .....	1
1 - 2 派 遣 目 的 .....	1
1 - 3 派 遣 期 間 .....	2
1 - 4 巡 回 指 導 班 メ ン バ ー .....	2
1 - 5 巡 回 指 導 班 日 程 表 .....	3
1 - 6 調 査 方 法 .....	5
2. 訪 問 国 別 調 査 内 容 .....	6
2 - 1 タ イ .....	6
2 - 2 イ ン ド ネ シ ア .....	10
2 - 3 韓 国 .....	15
3. 結 論 .....	22

### 参 考 資 料

1. 帰国研修員への質問書
2. 帰国研修員名簿
3. 面接者名簿

タイ国鉄バンコク中央駅



タイ国鉄ローカル DC

タイ国鉄バンスー・ヤード  
における巡回指導員  
中央 忽那  
右端 片山



インドネシア国鉄ジャカルタ  
コタ駅

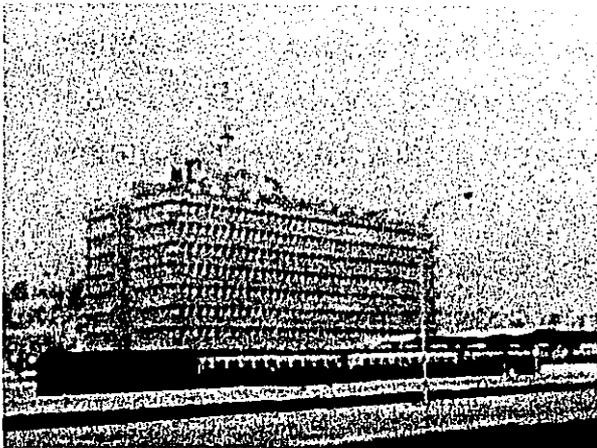


インドネシア国鉄バンドン駅  
構内

インドネシア国鉄ローカル用DL



韓国鉄道庁特急用D L



韓国鉄道庁とソウル駅構内

韓国帰国研修員との会談  
左側手前2人目から  
忽那、片山



# 1. 総 論

## 1-1 ま え が き

発展途上国に対する国際協力の一環として実施されている集団研修コースについては、鉄道分野において、鉄道信号、線路保守改良、車両、地下鉄工学、電化・高速運転の5コースについて研修員の受入れが行われている。今回の巡回指導の対象である鉄道信号コース及び電化・高速運転コースは、夫々昭和41年度、昭和44年度に開設され、以後毎年行われてきており、受入れた研修員は昭和50年度末までに上記2コースで40ヶ国、123名に達している。

研修実施機関として、上記2コースに関して研修員及び研修員の所属する機関が研修コースに期待する要望事項については、従来必ずしも十分な知識を持合せていたとはいえないものがあった。換言すれば、研修期間、研修内容の策定に必要な研修員の母国における鉄道の重要性、技術水準、帰国研修員の活動状況並びに研修コースに対する評価及び研修員の所属する上部機関の研修に対する評価等を的確に把握できる資料が不足していた。

今回、韓国、タイ、インドネシアの3ヶ国に対する巡回指導が実施され、短い期間ではあったが、多数の帰国研修員並びに彼等の上司と会談して意見交換を行うとともに、訪問国鉄道の現状を視察して上記の問題を解明する機会を得たことはまことに有意義であった。

## 1-2 派 遣 目 的

出発前にJICAから指示された内容をもとに、巡回指導班の相互討論並びに研修業務担当有識者のアドバイスを勘案してつぎのように定めた。

- ア 訪問国鉄道の施設視察等による技術水準等の実態把握。
- イ 帰国研修員の上司の研修コースに対する評価と要望の聴取。
- ウ 研修員の帰国後の活躍状況の調査。
- エ 帰国研修員の研修コースに対する意見の聴取と業務上の技術的問題点に

関する意見交換。

以上の点に関する情報をもととして、今後の研修業務をさらに一段と充実させるための基礎資料を得ることを目的として、一名でも多く帰国研修員並びに彼等の上司と面接し討論するとともに各国の鉄道の実情を把握して、今後の研修コースの実施に有用な資料の収集などを現地において行うこととした。

1-3 派遣期間

昭和51年10月13日から

昭和51年10月29日までの17日間

1-4 巡回指導班メンバー

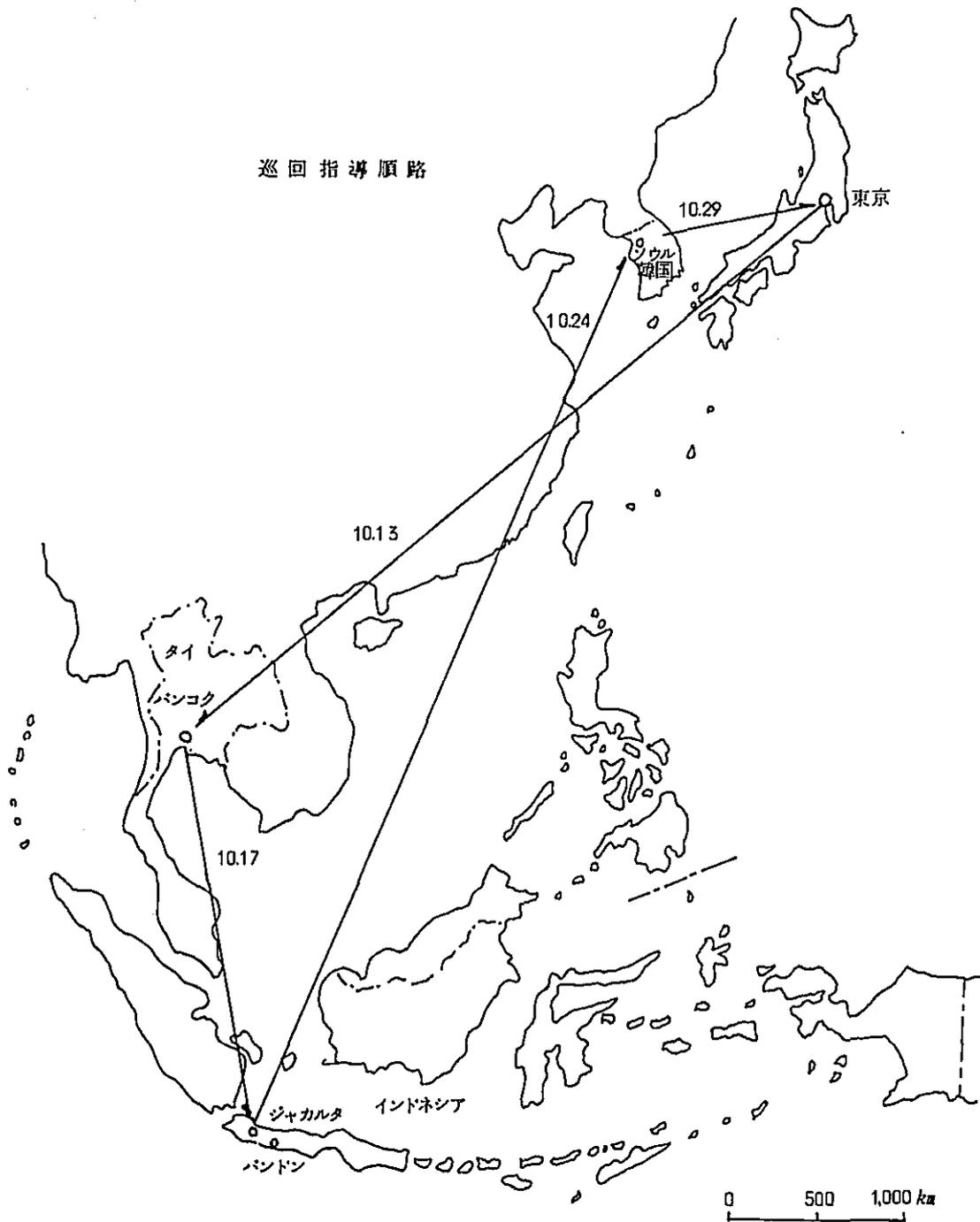
運輸省鉄道監督局車両工業課

専門官      フソ      ナ      愛      朝  
                 忽      那

日本国有鉄道東京南鉄道管理局運輸部調査課

課長      片      山      雄      一

1 - 5 巡回指導班日程表



巡回指導班日程表

月 日	曜日	訪問国	訪問機関	行動内容
10.13	水	タイ		東京発 バンコク着(空路)
14	木	"	JICAバンコク事務所 国鉄本社	挨拶、日程打合せ 国鉄施設視察
15	金	"	国鉄本社	施設局長表敬及び会談 帰国研修員と会談
16	土	"	国 鉄	バンズー操車場視察
17	日	インドネシア		バンコク発 ジャカルタ着(空路)
18	月	"	JICAジャカルタ事務所 日本大使館 運輸通信省	挨拶、日程打合せ 表 敬 陸運総局教育局長表敬
19	火	"	国鉄ジャワ西部支社	支社長、マンガライ工場長と会談 帰国研修員と会談
20	水	"	国鉄本社	ジャカルタ発 バンドン着(鉄道) 帰国研修員と会談
21	木	"	国 鉄	バンドン駅視察 バンドン発 ジャカルタ着(自動車)
22	金	"	JICAジャカルタ事務所 日本大使館	報告並びに挨拶 報 告
23	土	香 港		ジャカルタ発 香港着(空路)
24	日	韓 国		香港発 ソウル着(空路)
25	月	"	日本大使館 交通部 鉄道庁 交通公務員教育院	表敬、日程打合せ 輸送調整室長表敬 企画管理官表敬 院長表敬及び会談
26	火	"	ソウル地下鉄本部 鉄道庁	本部長表敬及び会談 地下鉄視察、TTCセンター訪問 帰国研修員と会談

月 日	曜日	訪問国	訪 問 機 関	行 動 内 容
10.27	水	韓 国	鉄道庁	鉄道視察 ソウル発 東大邱着(鉄道)
28	木	〃	鉄道庁	鉄道視察 東大邱発 ソウル着(鉄道)
29	金			ソウル発 東京帰着(空路)

#### 1-6 調査方法

巡回指導を短期間で効果的に行うため、出発前にはJICAを通じて訪問国の政府及び国鉄等における研修関係担当者との意見交換、帰国研修員との会談並びに鉄道関連施設等の視察について在外公館またはJICA海外事務所から夫々の関係機関にアポイントメントを取付けるとともに便宜供与方を依頼した。

現地においては、研修員派遣の政府窓口業務担当官への訪問、帰国研修員所属機関上司との研修の意義、研修内容に対する要望等についての意見交換を可能な限り行った。帰国研修員とは面接の際予め用意した質問書(参考資料1)に所要事項を記入して貰い、それに基づいてさらに詳細な討論を行った。

なお、時間の許す限り関係鉄道施設を視察し各現場において技術的問題点等についての助言を行った。

## 2. 訪問国別調査内容

ここでは各国別に政府窓口機関との会談、帰国研修員所属機関の概要、上司との会談内容、研修員との会談内容及びまとめの順に述べることにするが、会談内容については相手方の要望を中心として記述した。

### 2-1 タイ

帰国研修員は鉄道信号コースのみ9名で、全て国鉄に所属している。このうち面談して質問書を回収したのは8名である。

#### 2-1-1 政府機関窓口担当官との会談

タイを訪問したのは、10月13日から10月17日までの5日間であったが、丁度同国の政変に伴う混乱期と重なったため、残念ながら接触することはできなかった。

#### 2-1-2 タイ国鉄の概要

営業キロ 約4,000km

車両数

SL 約220両

DL " 250 "

DC " 50 "

PC " 1,000 "

FC " 9,600 "

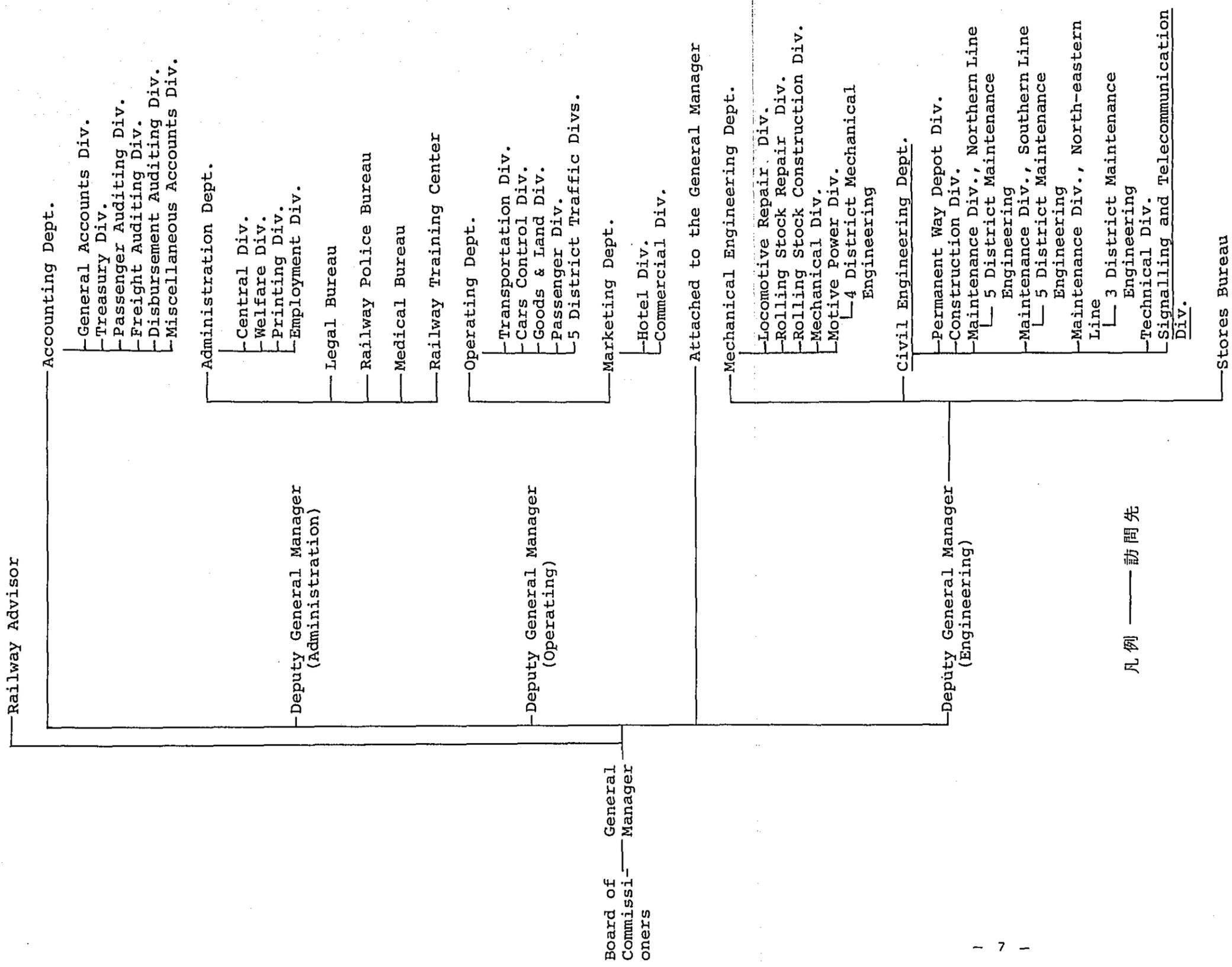
年間輸送量

旅客 5,640百万人キロ

貨物 2,353百万トンキロ

職員数 約3万名

タ イ 国 鉄 組 織 図



凡例 —— 訪問先

### 2-1-3 タイ国鉄幹部との会談

国鉄の施設局長並びに現在国鉄電気系統の最高責任者でもあり、かつ帰国研修員でもある施設局信号通信部長と会談を行った。

その概要は次のとおりである。

#### (1) 研修の意義

極めて有意義であり今後とも継続されることを希望する。帰国研修員は全て国鉄電気分野において中核となって活躍しており、電気設備の改良と保守の近代化に研修で得た知識を駆使し乍ら重要な役割りを果たしている。

#### (2) 研修の内容

われわれの鉄道技術の水準から見てあまりにも高度なものが多い。技術的に高度なものについてはわれわれの将来目標として当然教えて貰いたい。基礎知識についても高度なものと同様な力を入れて教えて貰うことを希望する。それも一回のみの講義で終わることなく研修員が充分理解できるまで反復して行って欲しい。また、紙の上、言葉の上だけでなく実地に手をかけさせ乍ら教えて貰うとともに、帰国後、知識を実用に移す場合の技術的アプローチをよく教えて貰うことを要望する。

#### (3) 研修の期間

研修員の大半は日本語が判らない。そうかといって英語についても必ずしも上手とはいえない。このような言葉のハンディキャップを勘案すると最低6ヶ月以上の期間が必要である。ただし、業務の都合からみて1年間では長過ぎる。

#### (4) その他

ア 大学卒を新規採用した場合、その職員を直ちに日本へ派遣して2年間位日本国有鉄道の中などで勉強できるようなシステムを考えて欲しい。

イ 帰国研修員について再教育を受けられるような何等かの方法を考えて欲しい。

#### 2-1-4 帰国研修員との会談

前に述べたとおり、帰国研修員は鉄道信号コースのみ9名で、そのうち病気療養中の1名を除き、8名と一堂に会して面談を行った。

その概要は次のとおりである。

##### (1) 研修の意義

大変有意義であった。その中のある者は、帰国後の業務改善に多いに役立っているし、習得した高度技術は将来の業務に対する糧となっている。

##### (2) 研修の内容

より実用的な教科内容、例えば検査周期、機器取替時期の論理的決定法等を盛込んで貰いたい。

##### (3) 研修の期間

個人によって若干の意見の相違はあるが、最大公約数としては6ヶ月程度に延伸して貰いたいという要望があった。

##### (4) その他

ア・必要技術資料の紹介並びに入手方について特段の援助が希望された。

イ 再教育について是非考慮して欲しい。

ウ 研修条件として英語を理解できることとなっているが、いざ研修に行ってみると講師の大半は日本語で講義し、それをJICAの担当者が通訳する形となっている。ただ、残念乍ら技術的にこみ入った内容になってくると必ずしも満足のゆく解答が得られないので、この点の改善方を特に希望する。

エ 滞在費枠の拡大を要望された。

##### (5) まとめ

タイは、今後における道路輸送の行詰まり、国家的省エネルギー対策等を考慮すると、陸上輸送における鉄道の重要性については将来的に充分期待できるものと思われる。このため、国鉄は動力及び設備の近代化を鋭意進めているが、その一環として各国に研修員を派遣して専門家の

育成に努力しており、わが国としても今後ともこの努力に応える必要があると思われる。

鉄道信号については、技術的に相当勉強しており知識も豊かであるが適用の理由、方法等についての知識をさらに身に付けることが肝要であると思われた。

また、帰国研修員に対しては国鉄自体で重要視して扱っており、近年業務量の変化があまりないところからポス特的には相当な待遇を受けているように見受けられた。

## 2-2 インドネシア

帰国研修員は鉄道信号コース6名、電化・高速運転コース3名の合計9名で全て国鉄に所属している。このうち4名は勤務が遠隔地のため、1名は公務出張中のため、面談して質問書を回収できたのは4名であった。

### 2-2-1 政府機関窓口担当官との会談

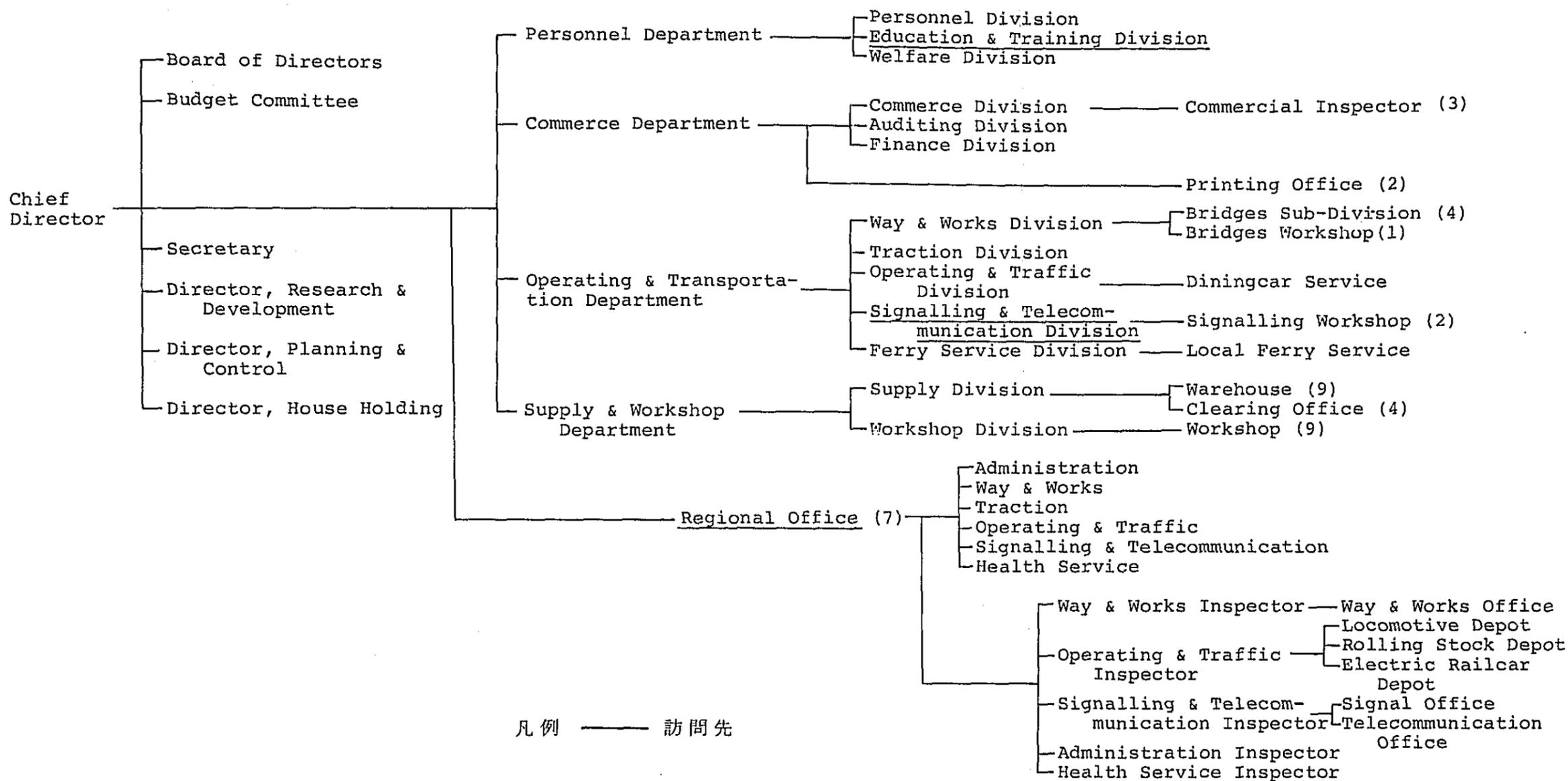
運輸通信省陸運総局教育局長を訪問した。ここが鉄道関係海外研修の政府窓口であるが、単に事務的処理のみを行っていると思われるため表敬のみで止まった。

### 2-2-2 インドネシア国鉄の概要

営業キロ	約8,000 km (うち電化区間 約100 km)
車両数	
SL	約 700 両
DL	“ 300 “
EL	“ 10 “
EC	“ 40 “
DC	“ 10 “
PC	“ 2,200 “

	F O	約 2 4, 0 0 0 両
輸 送 量		
旅 客		3, 3 7 0 百万人キロ
貨 物		1, 0 4 0 百万トンキロ
職 員 数		約 6 2, 0 0 0 名

インドネシア国鉄組織図



## 2-2-3 インドネシア国鉄幹部との会談

国鉄本社養成課長、ジャワ西部支社長、マンガライ工場長等と会談を行った。その概要は次のとおりである。

### (1) 研修の意義

非常に有意義であり今後とも継続されたい。研修に派遣している職員は全てその途の権威者であり、日本、特に日本国有鉄道で得たノウハウはわれわれの鉄道にとって大変重要である。

### (2) 研修の内容

技術的進捗度合が日本とインドネシアではまるで異なるのでこの点に充分留意した上で特に保守面に重点をおいて基礎から教えて欲しい。

例を電化にとると、われわれの電化方式は直流1,500Vなので日本国有鉄道と同じである。ただわれわれは保守に対して経験がないので検査周期のあり方や検査方法を教えて貰いたい。また、本来的にはコースは異なるかも知れないが、車両の保守についてわれわれの機関車の全般検査の際の所要在場日数は約1ヶ月でこれをできるだけ短縮して車両の運用効率を向上したいと思っている。研修の中では日本国有鉄道の所要在場日数について車種別に何日間を要し、その間の工程についても教えて貰って有益であるが、できれば何故このように短縮できるのかについても今後のコースの中で教えて欲しい。

信号コースの場合、自動信号装置の技術的内容については教科の中に入っているが、今後はどのような場合に非自動信号方式を自動信号方式に置替える必要があるのか等についてコースの中で教えて欲しい。

### (3) 研修の期間

特に希望はなかった。

### (4) その他

インドネシア国鉄は日本を始めとしてパキスタン、西ドイツ、フランス、アメリカ等に研修生を派遣しているが、アフターケアとして巡回されたのは日本だけであり、これはわれわれの発展に対する日本

の並々ならぬ援助意欲の表われてあり、時々これを行ってわれわれの要望を加味して研修内容をより意義あるものにして欲しい。

- イ 研修コースについては、通信コース及び輸送コース（輸送設備を含む）の新設を要望された。特に輸送コースについては、鉄道最大の使命であり、しかも日本が世界で一番進んでいる輸送業務のコースは鉄道関係コースの中に本来的に入っているべきであるとの強い指摘があり、若し、そのコースを新設するならばその中で動力近代化に伴う車両基地の新設、改良の方法、貨車運用効率向上法、貨物荷役の機械化等についても併せて盛込んで欲しいとの要望がなされた。

#### 2-2-4 帰国研修員との会談

帰国研修員9名中、電化・高速運転コース2名、鉄道信号コース2名と夫々ジャカルタにおける国鉄ジャワ西部支社及びバンドンにおける国鉄本社で会談を行った。その概要は次のとおりである。

##### (1) 研修の意義

社会環境、設備条件は異なるが、客観的にインドネシア国鉄と日本国鉄とを比較し得たこととともに、自分の専門分野の知識を高めたことは非常に意義があった。

##### (2) 研修の内容

日本との技術的格差を考慮に入れて、前半では基礎を後半で高度なものを教えて欲しいとの要望が強かった。

##### (3) 研修の期間

6ヶ月間に延伸することが要望された。

##### (4) その他

ア 必要技術資料の紹介及び入手方について特段の配慮が要望された。

イ 滞在費の枠の拡大を要望された。

## 2-2-5 ま と め

インドネシアでは近年における道路交通の混雑から鉄道輸送が改めて見直されてきているようであり、その一つの表われがジャカルタ附近電化に際しての大統領夫妻の電車試乗になったと思われる。このため、インドネシア国鉄は予算枠に制約を受け乍らも動力を中心とした近代化、合理化に努力している。今後の課題は、近代的設備を熟知することも勿論肝要であるが、それと併せて如何にして近代化された車両、設備を運営保守して行くかについての知識を得ることがより大切であると考えられ、この点で研修員受入れ等を通じてのわが国の果たす役割りはまことに大きいものと思われる。

帰国研修員については、国鉄幹部の言葉にあるとおり、技術陣の中核として活躍しており、大多数は帰国後栄進している。

## 2-3 韓 国

帰国研修員は鉄道信号コース6名、電化・高速運転コース5名の合計11名で、このうち面接して質問書回収したのは9名である。

### 2-3-1 政府機関窓口担当官との会談

交通部のナンバー3である輸送調整室長を訪問したが、国会開会中多忙のため研修員の受入れに対する謝辞が述べられたのみで表敬訪問に止まった。

### 2-3-2 韓国鉄道庁、交通公務員教育院、ソウル地下鉄の概要

鉄道庁と交通公務員教育院はともに交通部に所属している。ソウル地下鉄はソウル特別市の中の組織であり、地下鉄の運転は鉄道庁電化区間と相互乗入れを行っている。

また、何れの機関においても職員は全て国家公務員である。

(1) 鉄道庁

営業キロ	約 3,000 km (うち電化区間 約 400 km)
車両数	
S L	約 90 両
D L	〃 396 〃
E L	〃 70 〃
E C	〃 120 〃
D O	〃 130 〃
P C	〃 1,720 〃
F C	〃 15,800 〃
輸送量	
旅客	約 12,900 百万人キロ
貨物	〃 9,300 百万トンキロ
職員数	約 33 千名

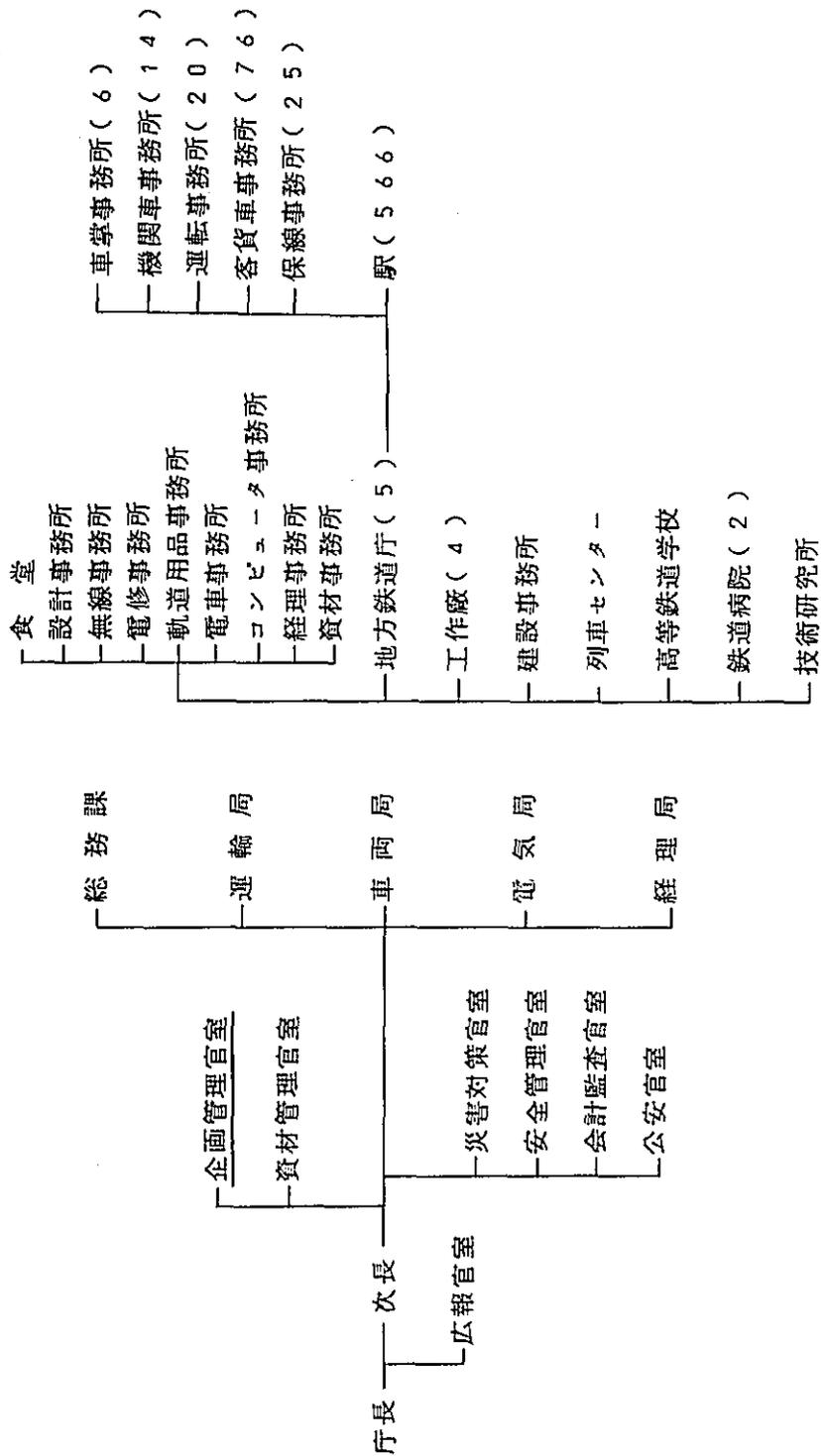
(2) 交通公務員教育院

職員数	約 100 名
教育実施内容	新規採用者教育、登用者教育、管理者教育、転換養成、職務再教育
教育実績	約 4,000 ~ 6,000 名/年

3-2-3 ソウル地下鉄

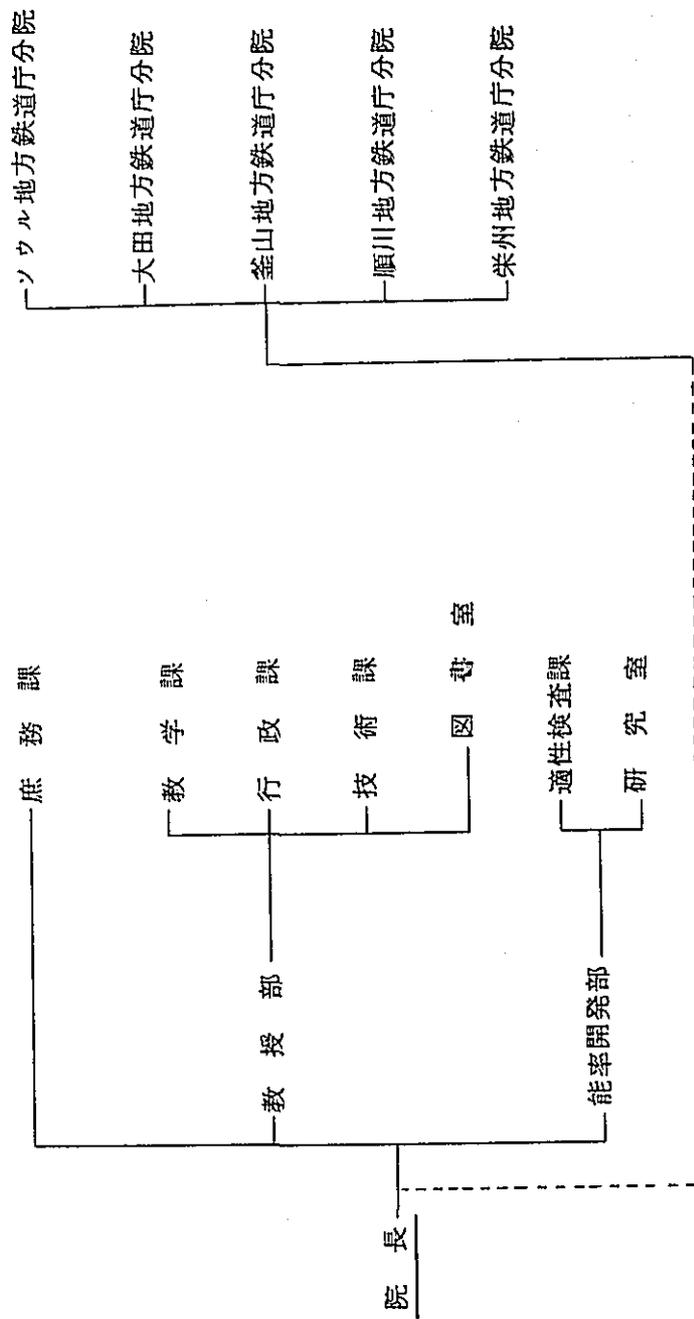
営業キロ	約 8 km
車両数	E L 60 両
職員数	約 700 名

韓國鐵道庁組織圖



凡例 — 訪問先

交通公務員教育院組織図



凡例——訪問先

### 2-3-3 韓国鉄道庁、交通公務員教育院、ソウル地下鉄幹部との会談

鉄道庁では、企画管理官並びに海外協力担当官と、交通公務員教育院では、院長並びに教学課長と、ソウル地下鉄では本部長、技術担当官、電気課長と夫々会談を行った。その概要を集約すると次のとおりである。

#### (1) 研修の意義

われわれの鉄道は日本と極めて類似しているため、日本で研修し取得した知識は本人にとっても、鉄道にとっても非常に有益である。今後とも是非続けて欲しい。

#### (2) 研修の内容

研修員が帰国後その取得した知識を基として伝播教育を行いたいし、実際そうしているので教科内容にその点の配慮を願いたい。

また、教材が若干簡単であると思われるので研究資料等を含めた中味の濃いものにされることを要望する。

#### (3) 研修の期間

特に希望はなかった。

#### (4) その他

ア T I Cに図書室を設置して各分野別の技術図書見本を備付けて、研修員の希望に応じて図書を購入できるような配慮が望まれる。

イ 管理者に対する技術及び管理面の研修コースの新設を希望する。コースの新設が困難な場合は単独で受入れて貰えるような何等かの方法を考えて欲しい。

### 2-3-4 帰国研修員との会談

本項冒頭でも若干ふれたが、帰国研修員は下表のとおり。

機関別	コース別	鉄道信号 コース	電化・高速 運転コース	計
鉄 道 庁		3 名	4 名	7 名
交通公務員教育院		1	1	2
ソウル地下鉄		2	-	2
合 計		6	5	11

11名でこのうち公務出張中の2名を除いた9名のほかに、車両コース3名、地下鉄工学コース2名の14名と一堂に会して会談を行った。その概要は次のとおりである。

(1) 研修の意義

非常に有意義である。帰国して直ちに業務上役立つことが多いので今後とも継続して欲しい。

2-3-4-2 研修の内容

研修は全くの基礎から始まる。われわれは一応その途の専門家なので、イロハのイは必要とはしない。したがって、最初から突込んだ内容で始めて貰いたいと同時に、教材についても基礎的なものは省いて研究資料等を組込む等より高度な内容のものとされたい。

また、講義は設備及び設備の保守についての内容は豊かだが、輸送と設備及び保守との結びつきについての内容に欠けるうらみがあるため、今後のコースにおいてこの点を特段と強化して教えて欲しい。

(2) 研修の期間

4ヶ月間程度が最も適当と思われる。

(3) そ の 他

ア インドネシアと全く同様であるが、輸送に係るコース、特に輸送設備のあり方に関する講座の新設を要望する声が圧倒的に多かった。

イ T I Cにおいて、図書室を新設し、専門書を展示してその中での希

望図書に対する購入あっせんを行って欲しい。また、帰国後の技術力維持のために、鉄道関係協会等の定期刊行物を提供して欲しい。

#### 2-3-5 ま と め

韓国は、現在高度経済成長期にあり丁度わが国の10～15年前と同様な状況で活気に満ちている。鉄道も御多分に洩れず近代化の途上にあり、従来から種々な形での研修を日本に派遣したり、或いは日本から講師を招いて行っている。

韓国鉄道は、その生立ちからみてもわが国の鉄道と軌間を除けば極めて類似しているもので、この面からも今後とも日本の果たす役割りは大きいものがある。なお、この国は他のいわゆる開発途上国と異なって技術力も格段の差があるため集団研修の実行方について一考を要するものと思われる。

また、これは研修に対する評価にもつながる事柄であるが、帰国研修員は何れも中堅幹部として大いに活躍しており、鉄道庁では大多数が帰国後栄転しているし、交通公務員教育院では鉄道信号コース、電化・高速運転コース修了者夫々1名ずつが、信号並びに運転の講師として活躍している。ソウル地下鉄においては発足間もないため帰国研修員は研修時のポストのままであるが、地下鉄本部長の話では、将来計画に従って地下鉄網の拡張を行った暁には業務量の増加に伴い、帰国研修員は夫々上位のポストに異動させる予定であるとのことであった。

### 3. 結 論

今回巡回したタイ、インドネシア及び韓国の鉄道においては技術力に差異はあるが、程度の差こそあれ何れも近代化の途上にある。動力並びに設備の近代化、機械化にあたっては大きなものは殆ど外国技術に依存しているが、プロジェクト完成後における維持、運営は全て自分達自身の力で行っているため、経験豊かなわが国の指導を切望しているとともに、具体的に如何なる場合に、如何なる理由でどのように適切な設備改良を行ったら良いかについても、今後、教科内容に盛り込みつつ研修内容の充実をはかることが肝要であると思われる。

論旨は若干前後するが、訪問国の集団研修コースに対する評価は非常に高く、研修内容も満足すべき状態にあるとの意志表明も行われたが、同時にわれわれの巡回指導に対しては、研修成果に対するチェック、帰国研修員に対するアフターケア並びに今後の集団研修コースの充実に対する政府及びJICAの努力と熱意とに驚嘆に近い眼で心からの謝意が述べられた。

アフターケアとしては、大部分の研修員から最近の情報、文献等の供与を希望されたが、これを実施するためには要員、予算面での制約が多々あるかと思われるが、今後彼等の期待に応えるにはどうすれば良いかについて検討を進める必要がある。

集団研修コースにおいては、技術力を含めた国情に差異のある研修員を同一の教材を使用して平均的レベルの研修を実施するのは当然であり、それなりのメリットもあり、今日まで多大の成果を挙げてきたところであるが、反面技術力が必ずしもその進んでいるとはいえない国からは基礎知識から充分に行って欲しいとの希望が出され、また、技術力の相当高い国では程度の高い教科内容を要望されることとなった。両者の希望を同時に満足させることは到底不可能ではあるが、今後のコース設定にあたっては何らかの工夫が必要かと勘案される。

輸送、特に輸送設備のあり方に関する研修コースの新規開設を希望する声非常に強かった。発展途上国の鉄道を有機的且つ効率的に運営していくために

はこの面の知識が今後最も要求される場所である。従って、本コースを新設して希望に応えるようJICAを中心として努力を傾注する必要があるが、これには予算の面で問題があると思われる。解決策としては、電化・高速運転コースの中で内容の充実をはかるか、或いは鉄道関係5コースを再編成してコースの新設をはかるかの2つの方策が考えられるので、関係機関における理解と協力とを期待する。

総論でも述べたが、研修コースの充実と向上及び技術指導のために研修員の母国の社会環境、鉄道技術の水準、陸上交通機関の現状、研修効果に対する評価及び研修に関する各国の要望等について適切な情報を今次の巡回指導で得られたことはまことに有意義であった。今後とも巡回指導を継続し、帰国研修員に対するフォローアップの強化とより高い評価を受け得る研修内容の充実とを関係機関に要望する。

本報告書は、短期間のうちに3ヶ国を巡回し、可能な限り帰国研修員及び彼等の上司と会談し、数多くの鉄道施設等を視察した関係上、内容としては不備な部分が多いことと思われるが、今後の研修員受入れ事業の改善に幾分なりとも役立つことができれば幸いである。

最後に、今回の巡回指導実施のために御尽力を賜った在外公館、JICA海外事務所を始めとする関係各位に心から謝意を表する次第である。

参考資料 1 帰国研修員への質問書

Q U E S T I O N N A I R E

Please write down for the following questions:

1. Your full name;
2. Your home address;
3. Name of course and year of your attendance;
4. Your occupation when you attended the course;
5. Your present occupation together with description of your duties;
6. What benefits did you obtain from the training?
7. Do you have any ideas and requests on the training course?
8. Period of course;  
Curriculum and contents;  
Others;
9. Do you have any requests for your follow up to the Japanese Government and the Japan International Cooperation Agency?

帰 国 研 修 員 名 簿

国 名	研修年度 (昭和)	研修コース名	氏 名	所 属 と 職 名		面接	質問書 回 答
				研 修 受 講 時	現 在		
タ 1	41	鉄 道 信 号	Somdej Yomaboot	Assistant Signalling Inspector, State Railway of Thailand(SRT)	Assistant Signalling Inspector, SRT	○	○
"	42	"	Thaworn Hongskul	Deputy Superintending Engineer (Telecommunication), Signalling & Telecommunication Div., Civil Engineering Dept., SRT	Superintending Engineer, Signalling & Telecommunication Div., Civil Engineering Dept., SRT	○	○
"	42	"	Warachoon Tasnai	Radio-Telecommunication Technician, Signalling & Telecommunication Div., SRT	Assistant Chief, Radio Section, Signalling & Telecommunication Div., SRT	×	×
"	42	"	Surintra Siwapradit	Signalling Inspector, SRT	Signalling Inspector, SRT	○	○
"	44	"	Prayoot Trisdikoon	Assistant Chief Inspector for Workshop Section, Signalling & Telecommunication Div., SRT	Assistant Chief Inspector for Workshop Section, Signalling & Telecommunication Div., SRT	○	○
"	45	"	Thawee Kantasontorn	Assistant Chief of Work Shop Section Signalling & Telecommunication Div., SRT	Assistant Chief of Signalling for Work Shop Inspector, SRT	○	○
"	46	"	Tongdee Chetamee	Chief Carrier Telephone Inspector, SRT	Chief Carrier Telephone Inspector, SRT	○	○

国名	研修年度 (昭和)	研修コース名	氏名	所 属 と 職 名		面接	質問 回答
				研 修 受 講 時	現 在		
タ 1	48	鉄道信号	Samdang Kalyanamitra	Assistant Chief Lighting Inspector, Signalling & Telecommunication Div., SRT	Chief Lighting Inspector, Signalling & Telecommunication Div., SRT	○	○
"	49	"	Suchai Roywirutn	Assistant Signalling Engineer, Signalling & Telecommunication Div., SRT	Assistant Signalling Engineer, Signalling & Telecommunication Div., SRT	○	○
インドネシア	43	"	Soeparadi Aep	Signal Section, West Java, Indonasian State Railways(ISR)	Signal Engineer at Jokjakarta, ISR	×	×
"	44	"	Soemadji	Signal Engineer at Bandung, ISR	Mechanical Signal Engineer at Jember, ISR	×	×
"	44	"	Adjat	Chief of Signal Section, West Java, ISR	Chief of Mechanical Signalling Section, ISR	○	○
"	48	"	Machumud	Divisional Signal Engineer 8th Madium, East Java, ISR	Divisional Signal Engineer 8th Madium, East Java, ISR	×	×
"	48	電化・高速 運転	Soebandha	Supervisor, Traction Engineering Division, West Java, ISR	Chief Inspector, Inspection on Traction of Coaches at Jakarta, ISR	○	○

国名	研修年度 (昭和)	研修コース名	氏名	所 属 と 職 名		面接	質問書 回答
				研 修 受 講 時	現 在		
インドネシア	49	鉄道信号	Tosin	Chief of Mechanical Signalling Section, ISR	Chief of Electrical Engineering Section, ISR	○	○
"	49	電化・高速 運転	Dodi Bandanidji	Chief of Car Depot in Jakarta, ISR	Chief of Machinery & Building Maintenance, Mangaarai Workshop, ISR	○	○
"	50	鉄道信号	Soctojo	Chief of Signal of 3rd Inspection, Bandung, ISR	Divisional Signal Engineer at Palembang	×	×
"	50	電化・高速 運転	Soekadar	Electrical Engineer, ISR	Electrical Engineer, ISR	×	×
韓国	46	鉄道信号	鄭 鎮 秀 Chung, Jin-Soo	鉄道庁施設局信号課	鉄道庁設計事務所	×	×
"	46	電化・高速 運転	金 龍 祚 Kim, Yong-Jo	鉄道庁釜山地方鉄道庁 運転係長	鉄道庁ソウル工作廠貨車工場長	○	○
"	47	鉄道信号	鄭 燦 玉 Chung, Chan-Ok	鉄道庁忘憂電気事務所 技術助役	交通公務員教育院 教授部技術課教官	○	○

国名	研修年度 (昭和)	研修コース名	氏名	所 属 属 と 職 名		面接	質問書 回答
				研 修 受 講 時	現 在		
韓国	47	電化・高速 運転	金 烈 会 Kim, Yeul-Hoe	鉄道庁運輸局運転課 運転係長	鉄道庁運輸局旅客課 設備係長	○	○
"	48	鉄道信号	趙 誠 和 Cheo, Sung-Hwa	鉄道庁ソウル地方鉄道庁 信号技師	鉄道庁ソウル地方鉄道庁 信号技師	×	×
"	48	電化・高速 運転	韓 宗 燮 Han, Jong-Seob	鉄道庁運輸局貨物課 構内計画係長	鉄道庁運輸局旅客課 輸送計画係長	○	○
"	49	"	黄 圭 得 Hwang, Kyu-Dug	鉄道庁運輸局旅客指令	鉄道庁運輸局営業管理課係長	○	○
"	49	鉄道信号	金 正 秀 Kim, Jeung-Soo	鉄道庁施設局信号課	鉄道庁ソウルCTC保安事務所 信号検査技師	○	○
"	49	"	Koh, Jong-Ha	ソウル地下鉄TTCセンター所長	ソウル地下鉄TTCセンター所長	○	○
"	50	"	朴 丙 基 Park, Byung-Ki	ソウル地下鉄高速運転局運輸課	ソウル地下鉄高速運転局運輸課	○	○
"	50	電化・高速 運転	金 三 祚 Kim, Sam-Jo	鉄道庁運輸局運転課 動力係長	交通公務員教育院教授部 技術課教官	○	○

参考資料 3 面接者名簿 (帰国研修員を除く)

Thailand

- Mr. Prachoom Annavadhana  
Chief Civil Engineer,  
Civil Engineering Department,  
State Railway of Thailand
- Mr. Thavee Thongpan  
Civil Engineer,  
Civil Engineering Department,  
State Railway of Thailand
- Mr. ウクリット シリサー  
Deputy Superintending Telecommunication Engineer,  
Signal & Telecommunication Division,  
Civil Engineering Department,  
State Railway of Thailand
- Mr. Atit Ratarasarn  
Assistant Signal Engineer,  
Signal & Telecommunication Division,  
Civil Engineering Department,  
State Railway of Thailand

Indonesia

- Mr. Herdjan Kenasin D. Econ  
Director,  
Land Transportation Training Department,  
Land Transportation General Department,  
Ministry of Communication,  
Government of Indonesia
- Mr. R. Surachmat  
Superintendent,  
Training Division,  
Personnel Department,  
Indonesian State Railways

- Mr. Soetarno  
Civil Engineer,  
Regional General Manager,  
West Java Region,  
Indonesian State Railways
- Mr. J. T. Situmorang  
Mechanical Engineer,  
Manager of Manggrai Railway Workshop,  
Indonesian State Railways
- Mr. Soetrisno  
Deputy Superintendent (Telecommunication),  
Signalling & Telecommunication Division,  
Civil Engineering Department,  
Indonesian State Railways
- Mr. Sudjatmiko  
Administration & Planning Officer,  
West Java Region,  
Indonesian State Railways
- Mr. A. Harbani  
Chief of Signalling & Telecommunication,  
West Java Region,  
Indonesian State Railways

韓 国

文 明 麟

交通部輸送調整室長

任 奎 宰

鉄道庁企画管理官

方 錫 起

鉄道庁企画管理官室海外協力担当官

李 起 商

交通公務員教育院 院長

李 哲 衡

交通公務員教育院 教授部教学課長

金 仁 杓

ソウル地下鉄本部長

申 文 秀

ソウル地下鉄技術担当官

徐 仁 源

ソウル地下鉄 電気課長

鄭 福 萬

ソウル地下鉄 電気課信号係長

権 重 守

ソウル地下鉄乗務員管理所指導助役(昭和48年度車両コース研修員)

鄭 栄 振

ソウル地下鉄乗務員管理所長(昭和48年度車両コース研修員)

金 平 鎮

ソウル地下鉄運輸課運転係長(昭和48年度車両コース研修員)

李 瓊 宰

ソウル地下鉄信号保安所所長(昭和48年度地下鉄工学コース研修員)

